

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 溪仁会	代表者	谷内 好	法人・ 事業所 の特徴	「わが家のように、いきいき」という施設理念のもと、本体施設「小規模多機能型居宅介護 菊水こまちの郷」のサテライト型施設としてサービス提供をします。 5LDKのマンションを利用しており、少人数でアットホームな雰囲気の特徴です。事業所前には庭があり、花壇や家庭菜園を楽しむことが出来ます。
事業所名	サテライト小規模多機能ホーム るびなす	管理者	澤田 大恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	3人	0人	5人	1人	0人	4人	0人	14人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	時間を有効的に活用できるように業務改善を継続する。時間的に余裕のある業務環境を整え、職員が働きやすさを感じることで、全職員が高いモチベーションを持って業務に取り組むことができるようになることを目指す。	時間の使い方の見直しを行い、結果として、退勤時間になったらただちに帰宅できるようになった。そのことが職員のモチベーションをあげることとなり、また時間を有効的に活用することで利用者さんと関わる時間も増え、職員が感じる充実感も増した。	業務改善の結果、利用者さんと関わる時間が増え良かったと思う。	前回はリーダー主導で事業所としての時間の有効活用に取り組み成果を生んだ。今回は職員各々が業務時間をマネジメントする能力を高めることに取り組み、結果として事業所としてさらに時間の有効活用ができ、より働きやすい職場環境となることを目指す。
B. 事業所のしつらえ・環境	開設して4年が経過して、物が増えていく。物は定期的に要・不要を検討し、常に整理整頓された状態を維持できるようにして、利用者様が居心地よく過ごせるようにする。	レク用品やキッチン用品は断捨離を行い、レク用品を収納している棚は、整理整頓されていても乱雑に見えてしまうため、カーテンを取り付けた。物の収納に関して、収納場所の地図を作成予定。いつも同じ場所に収納することで、どこに何がどのような状態であるかを全職員が把握し、定期的に物の要・不要を検討することで、整理整頓された空間を保っていく。	るびなすの見学をしておらず、資料だけでは評価が難しい。 定期的な物品の整理整頓を続け、居心地の良い事業所にしてほしい。	1年を通して自然を感じるができる環境を整え、植物や花が身近にあることが和みとなり、利用者さんが居心地のよさを感じるができる事業所を目指す。
C. 事業所と地域のかかわり	新型コロナウイルスの感染リスクを考慮しながら、少しでも地域との関わりを増やすことができるように、事業所発信の取り組みをする。	新型コロナウイルスが第5類に移行し、地域のイベントが再開されていることは把握していたがイベントに参加するには至らず、地域との関わりを持つことはほとんどできなかった。	感染対策をしつつ、以前のように地域との関わりをもてるように、工夫してもらえると嬉しい。	町内会や近隣の高齢者施設等にアプローチをして、地域に貢献または溶け込むことができる活動に参加し、地域とのかかわりを増やす。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	新型コロナウイルスの感染リスクを最小限に抑えた形で活動参加をしていく。	新型コロナウイルスが第5類に移行したが、多くの人がある場へ出向くまでに感染対策を緩和するには至らなかったため、外出行事の企画や地域のイベントに参加が出来ていない。	これから地域との活動が再開されることを期待する。	感染対策を行いながら、以前のように地域のイベント等に参加をしていく。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>会議体での運営推進会議が再開された時は、介護職員も会議に参加をして、運営推進会議の理解を深めることができるようにする。</p>	<p>運営推進会議の内容については、新型コロナウイルスの感染状況もあったため会議体での情報共有ではなく、書面で情報の共有を図った。そのため、介護職員の会議への参加はかなわなかった。 運営推進会議資料を送付する際に特記事項を記載して報告をしている。</p>	<p>改善に努めアフターコロナの活動を期待する。 そもそも【外部評価】の仕組み、目的、制度についてガイダンスをしてほしかったと思います。初めての参加なので。</p>	<p>運営推進会議を有効的に活用するためには介護職員が運営推進会議について理解を深めることも重要であるため、運営推進会議に介護職員が参加をする。参加した職員はミーティングで会議参加の報告をして、事業所の全ての職員の運営推進会議への理解を深めることを目指す。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>迅速で正確な行動がとれるように、災害発生時の想定訓練を定期的に行う。災害発生後、利用者様にどのようなサービス提供が必要かということを個別に検討し、災害発生後の支援についての準備をする。</p>	<p>火災想定避難訓練を1回実施済み。訓練で一連の流れを実演することで災害発生時の対応の理解を深めることが出来ている。 災害発生後に必要な支援について、ニュース等で災害の話題がでた時に検討することができている。ただ、話した内容を文章等にまとめるまでには至らなかった。</p>	<p>職員間での連携が工夫されていると感じた。</p>	<p>防災・災害対策の意識を常に高く持っていることがいざという時のスムーズな行動につながると思うので、YouTubeを活用して、防災・災害時の学習を定期的に行う。</p>